

～観光・防災ガイドアプリが拓く岩手の未来～

平成27年いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター研究課題 採択課題

課題名：観光・防災用プロトタイプアプリの構築と運用にむけた研究

研究代表者： 総合政策学部 教授 吉野英岐

研究メンバー： 柴田義孝（ソフトウェア情報学部）、植田眞弘（宮古短期大学部）、平川剛（㈱ネットワーク応用技術研究所/岩手県立大学特別客員研究員）、佐藤剛至（ソフトウェア情報学研究科大学院生）、小野寺和真（総合政策研究科大学院生）

技術キーワード：観光・防災プロトタイプ・アプリ、Beacon

▼研究の概要（背景・目標）

沿岸被災地の観光資源を生かした復興の推進と災害に強い地域づくりにつながる観光・防災プロトタイプ・アプリの構築とその広域的な運用を目指す。

▼研究の内容（方法・経過）

プロトタイプ・アプリの基本設計および仕様はこれまでの研究で構築できたので、宮古市田老地区でのコンテンツ収集およびデモンストレーションを実施した。また同地区内の3地点にWi-Fiを設置し、マルチホップネットワークを構築するとともに、田老町漁協に新たに観光防災サーバを設置した。

▼研究の成果（結論・考察）

田老地区を踏査し、30箇所の観光・防災ポイントを選定し、それぞれに写真とコメントを付した。サーバーをYahooBB回線によるInternet環境に接続し、県内全体の観光情報サーバと連携させた。また観光アプリケーションのインタフェースとしてAugmented Reality(AR)機能を実装した。

▼今後の展開

田老地区での本格運用にむけてコンテンツを整備する

他地域での本技術の導入を進め、アプリの広域的展開の可能性の検証を進める

ソフトウェア技術と情報収集による観光・防災面からの地域づくりと復興の進展に貢献



観光情報を体験する：
アプリによる現地案内・体験

ナビゲーション 自動案内 その場でしか得られないコンテンツ

観光客

観光客が持つスマートフォン・タブレットでガイドツアーの利便性をお手軽体験

要素技術1 CMS



要素技術2 Beacon



Immediate Near Far Unknown
30m 2m 0.5m

訪問ポイント1



田老総合事務所の津波到達点

田老総合事務所の正面入口の駐車場に設置された津波到達点津波で事務所1階は水没したと想定される。

訪問ポイント2



改修中の旧たろう観光ホテル

旧たろう観光ホテルは震災遺構として残すことが決定し、公開にむけて改修工事が進められている。